

亀城福祉だより

第50号
平成24年3月発行
亀城学区社会福祉協議会



笑う門には福来る ～ふれあい交流会から～ 9月30日（本文3P）

亀城福祉だよりを会員の皆さんにお届けしてから、今回で記念すべき50号となりました。第一回の発行が二十五年前と推測されますので、昭和の終期頃が第一号となる訳です。先人達のご苦労と結集が今日に至ったわけですが、昭和終期から平成初期にかけての福祉だよりを拝読しておりますので、どのような変遷を辿ったかについては憶測するしかありませんが、やはり地域福祉を主体に取り上げた内容に成っていたのではないのでしょうか。学区社協の重点的活動として見回りネットワーク支援事業がありますが、平成三年より実施されている事業ですが、類似する内容が多かったと思われる。昨年より第二期地域福祉活動計画が策定され、その指針に基づいて学区社協も実践活動を展開するわけですが、平成二十四年度は、同じ地域に住み何らかの支えを必要としている人たちが自立した生活を送る事ができるよう、また、誰もが自分らしくよりよく生きることができるよう行政・福祉事業者および地域住民が協力して住み良い町をつくりあげる取組みである地域福祉の原点に少しでも近づきたいものです。



亀城学区社会福祉協議会
会長 本間 宏

亀城福祉だより50号によせて

地域交流いきいきサロン

おらだのあづばり

最上町自治会亀寿老人クラブ
相談役 阿部 健二



地域の氏神様として、多くの人々から信仰されている観音様の境内と隣接する児童公園をきれいにするため、亀寿老人クラブ（会長斉藤功）の中に清掃班が組織されている。地域への奉仕活動、作業による健康維持、会員の安否確認、それに情報交換を目的としている。

四月から十一月までの毎月の第一第三日曜日の朝六時から実施している。清掃当日、観音様社殿の階段に腰を掛け、会員の集まるのを待ち、大方が揃った所で「それでは始めましょうか」との掛け声で観音様に向かって、二礼二拍の拝礼を行い、掃除を開始。大風の後、秋の落葉が多い時には少々時間はかかるが、約一時間後、ほぼ片付いたところ



地域に集う おらだの爽やかな笑顔！

カラオケで盛り上がり、女将の手踊り「岸壁の母」にはやんやの喝采「オヒネリ」が飛ぶにぎやかなおらだちのあづばりである。

ろで「作業完了」という長老の声と共に手を止め用具を片づけ終了となる。
そのまま解散するのではなく、正法会館勝手の間に向かいあったかいコーヒー、お茶等置かれるテーブルに座り、担当者より本日の参加人数が報告され、次いで亀寿老学会長より連絡事項等の話があり、その後はコーヒー、お茶を飲みながらの自由な話し合いとなる。会員の近況、世間話等様々な話が飛び交う和やかなひとときである。
又、年三回、会員の親睦と慰労を兼ね、鶴岡市三瀬のなじみの旅館で懇親会を開催している。

地域の福祉を支えて

身近な地域福祉の支えである
民生委員さんにお聞きしました



民生委員 皆川 和吉 さん
担当区域 亀ヶ崎三丁目・五丁目

●民生委員の活動内容

地域のみなさんの福祉や教育、保健などについて、相談にのったり、関係機関とのパイプ役になったりしています。高齢化が進み一人暮らしの方も増えていきます。悩みを抱え込まないで気軽に相談して下さい。プライバシーは他に漏らしません。

●活動への思いなど

自治会長さんや福祉協力員達の連携を大切にしています。地域の方から「ごくろうさま」と言われる一言にやりがいを感じています。

編集後記

○お隣近所の絆を大切に一人でも頑張らず、お互いに声をかけあいましょう。「おはよう」の言葉が明るい一日の一步です。（阿部）
○酒田に越して二十年。三人の子ども達は地域の温かさの中で育ち、末の子もこの春中学卒業となります。地域の皆様には感謝感謝です。（田澤）

○特別ハッピーなことがなくてもいい。宝くじで一億円当たらなくてもいい。皆が平凡な日々を送るための一助が福祉の役割りなのだと思います。（大江）

今年度も多くの皆様方のご協力をもちまして無事発行できました。一年間ご愛読いただきありがとうございました。



平成23年度編集委員

阿部 宣子	田澤 薫
江口 暢子	矢野 信子
大江 美千	本間 宏
大場 直人	

（五十音順）

第2回会員研修会
(1月21日)



地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構
法人管理部経営企画 課長補佐 田中 愛久氏
酒田市健康福祉部健康課
課長補佐 阿部 博氏

今考えよう！医療と介護のはざま

高齢化が進む中、私達の生活にとって地域医療はますます大切なものになっています。身近な医療機関である日本海総合病院法人管理部和酒田市健康福祉部の職員の方からお話をお聞きしました。



—自分のペースで、無理せず—
今年度の介護予防講座にて撮影

化と、県立日本海病院の経営状況もあり、平成20年に「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構」が設立されました。

◆統合再編による変化◆

○日本海病院は「急性期中核病院」と位置づけられました。また、酒田医療センターは「療養型病院」という位置づけになっています。

○病院業務におけるスピード感がアップ。例えば、業務の決定や実行などが早くなりました。

○単年度の予算ではなく、長期的な視野に立った財務運営、経営ができるようになりました。

◆統合再編の効果◆

黒字になり、医療機器などの整備、臨時職員などの必要な人的投資ができ、院内保育所も整備されるなど大幅な経営改善が図られています。

◆参加者の質問・意見◆

【質問】外来の待ち時間が長く大変です

【回答】午後診療も増やしていますが患者数が多くなかなか対応ができません。消化器内科は特に検査が多くなります。病診連携も大事なので、ぜひ地域のかかりつけ医さんを持っていただきたいです。

参加者の中からは、家族を救急車でかかりつけ医に連れて行き、かかりつけ医からの指示で日本海に行ったという事例や、手術後の療養に、ケアマネージャーと病院の連携で介護施設を利用した事例を聞きました。

酒田市より
健康診断を必ず
受診して下さいね。医療意識にもつながります。



地域の介護予防の大切さ

地域包括支援センター

はくちよう 須田清女さん



最近では、介護予防という言葉も地域住民の皆様にも周知されてきたように感じます。家から出たくないと思っている人はまず外に出て他の人と話をする。これが介護予防の第一歩。介護予防講座に参加し、いろんな方と交流をしましょう。

今年度は笑いの講座があり、皆さん笑うことの大切さを実感されていました。コミセンまで来られない方は地域のいきいきサロンなどに参加することも良いでしょう。はくちようではサロン立ち上げの支援もしておりますので、気軽に相談ください。

地域包括支援センターはくちよう

住所 酒田市緑町13-37

連絡先 TEL (21) 0818

9/30
in 亀城小

ふれあい交流会

参加者の声



渋谷 良子さん
(亀ヶ崎六丁目)

小学一年生とのふれあい交流会に、地域の方と出席しました。私の孫も亀城小の四年生になります。交流会の中で紙バクダン作りでペアを組んだ生徒さんは私の作ったのが一番大きい音が出ると大変喜んでいました。パラシユートを作ってみんなで飛ばして楽しそうでした。大脱走ゲームでは、大人も子ども以上に本気で行動し子ども達との交流を楽しみ元気をもらった気がします。



佐々木芙美子さん
(末広東部)

初めて交流会で逢った可愛い子ども達は、今大学受験のはず。または働くための準備中だろう



山田富士雄さん
(立町)

か。祈る健闘。その後も参加する度に感心するのは、企画準備実行がスムーズである事。協力しながらの工作、体を使う楽しいゲーム等々。今回もスタッフの方々に感謝しつつ特に現校舎最後の印象深さと共に、心地良い疲れを覚えながら帰途に着いた次第。

お年寄りと小学生がペアになり、最初は自己紹介がありました。「○○さくらこです」と紹介され、珍しい名前に驚くと共にこれから始まる行事に期待しました。紙と糸の材料・ハサミの道具を使ってパラシユートを作り、集団でのゲームもあって、日頃年寄りと遊ぶ機会が少ないせい、か体育館一杯に走り回り、久し振りに楽しい時を過ごすことができました。企画・立案・実行と大変ご苦労ですが、また来年を期待します。

青少年赤十字に加盟

酒田市立亀城小学校

今年亀城小学校は「気づき」

「考え」「実行する」という三つの態度目標を通して、子ども達に自主的で自立した態度を養いたいという願いから青少年赤十字に加盟しました。本校ではこれまでもボランティア活動や募金活動、牛乳パックの回収などにも取り組んできましたが、それらを青少年赤十字活動として位置づけ、自分を大切に、他の人を思いやる優しい心を育てていきたいと思えます。



酒田ユネスコ協会に400枚を超える葉書を寄贈した
ドリム委員会

「マイ歯ブラシ持参運動」で
歯の健康づくり！

酒田市立第三中学校

生徒会保健委員会では、虫歯が増加傾向にあるが昼休みに歯を磨く生徒が少ない状況から、「マイ歯ブラシ持参運動」を進めています。具体的には、七月に全校生徒の歯磨きの実態をアンケートで把握し、「保健委員会だより」で全校に知らせ、十月に「いい歯の集会」を企画して、歯磨きの重要性を訴えてきました。現在、少しずつ昼休みに歯磨きをする生徒が増えてきていて、委員会では、これからも歯磨きの呼びかけを継続し、健康な歯の三中になれるといいなあと願っています。



「酒田飽海児童生徒保健研究発表会」
(1月)で取り組みを発表する保健委員